漢字文化の懐の深さに思いを

「紅楼夢」新訳で読売文学賞

北九州市出身
井波陵一・京大教授

第66回読売文学賞の贈賞式が、都内で開かれた。2013年11月～14年11月に発表の文学作品（小説、詩歌俳句など6部門）の中で最も優れた作品に贈られる。研究・翻訳賞は井波陵一・京大人文科学研究所教授＝北九州市出身＝が翻訳した曹雪芹「新訳　紅楼夢」全7冊（岩波書店）が受賞した。

清代に書かれた紅楼夢は、三国志演義、水滸伝、西遊記と並んで「中国四大名著」といわれる。主人公の貴公子の悲恋を軸に、彼を取り巻く女性たちと一族の栄枯盛衰を描く。

井波教授は1953年、八幡市（現北九州市）生まれ。高校時代、実家にあった文学全集を手に取ったのが「運の尽き」と笑う。そこに収録された「紅楼夢」の抄訳に魅せられ、中国文学の扉を開いた。京大大学院修士課程を修了し、滋賀大助教授を経て現職に。約15年前から全訳に取りかかり、いつか自らの手で訳したいとの思いを結実させた。

同賞では「比類なき驚嘆すべき物語世界の全容を余すところなく伝える」（沼野充義選考委員）と評価された。贈賞式で井波教授は「紅楼夢は中国の人にとって最も心ときめく作品。お茶や料理、詩の作り方、はては悪口の言い方まで書かれている。これを味わい、楽しみ、漢字文化の懐の深さに思いを致してもらえたらいい」とあいさつした。

（大矢和世）